

MADE IN SINGAPORE. (メイド・イン・シンガポール) セントーサに登場した新素材 開発ラッシュのセントーサでシンガポールならではの体験を



シンガポール政府観光局 (STB) がシンガポールへの旅の意欲を喚起するブランドキャンペーン「Made in Singapore. (メイド・イン・シンガポール)」を実施するなか、シンガポールならではの体験や予想外の体験ができる場所として注目したいのがセントーサ島。レジャーの複合施設や最新のアトラクションなど新施設の開業が相次いでいる。シンガポールの中心から15分ほどで別世界が広がるセントーサ島にアトラクションの選択肢がさらに増え、アジア有数のレジャー目的地としての地位を確立している。

多様な遊びが集まるライフスタイルエンターテインメント ザ・パラワン・アット・セントーサ

2023年7月、パラワンビーチにオープンしたシャングリ・ラ・グループが手がけるエンターテインメントの複合施設で、子供から大人までが楽しめる7つのレジャー施設が集まっている。主にビーチクラブと飲食、アトラクションから成り、ビーチクラブはファミリー用と大人向けの2つ、アトラクションは地域初の屋内カート場、シンガポール初の水上アクアパーク、18ホールのミニゴルフコースがある。



シャングリ・ラ・グループが運営している。本島のホテルに泊まっても、1日はオーシャンビューのプールで遊ぶなど施設を利用することで滞在に変化がつけられる。

レストランやフードトラックも備わり、ビーチサイドの新しいライフスタイルエンターテインメントとしてすでに賑わいを見

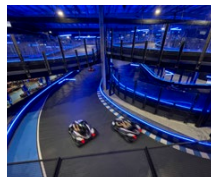
アトラクションはゴルフ、カート、ウォーターパーク

18ホールの「ウルトラゴルフ」はミニゴルフコースで、手ぶらで気軽にでき、家族全員で楽しめる。ミニサイズとはいえ難ホールもあり、ベテランから子供までがプレイできるように設計されている。



誰でも楽しめるコース

「ハイパードライブ」はアジア初の電気自動車カートの3階建て屋内サーキット。1周308mのトラックに14のコーナーがあり、約時速30kmで走行。1セッションは8分間。対象は9歳以上あるいは身長130cmで、9歳以下は大人と2人乗り



エアコンが効いた屋内で快適に走行

カートに乗車でき、パーチャルゲームの要素も加えた走行も選べる。2階にカフェがあるほか、ファンクションルームもあり、企業グループなどに利用可能。

「ハイドロダッシュ」はシンガポール初の海上ウォーターパークで、滑り台にジャンプ台、雲梯やカタパルトとフロートの種類もさまざまでビーチ上のアスレチックで子供と一緒に大人も遊べる。利用は6歳以上、身長110cm以上、時間は1時間から。



フローティング玩具がパラワンビーチに浮かぶ

2つの特徴あるビーチクラブ

ビーチクラブはビーチにプールと飲食を備え、宿泊をしなくてもリゾート感覚が満喫できる施設。ザ・パラワン・アット・セントーサには2つのビーチクラブが誕生している。席数で販売するため公共ビーチなどと違い、混み過ぎることはなくゆったり過ごせるのがビーチクラブの良い点だ。

ファミリー対象の「スプラッシュ・トライブ」には子供が遊べるプレイゾーンやインフィニティプールの周りに、プール上とプールサイドのデッキチェア、デイベッド、テーブル席、プライベートガゼボの5種類の席が合計208あり、席によって異なる最低料金を支払う形で4時間利用できる。食事はフィッシュアンドチップスやハンバー



スプラッシュ・トライブのデイベッド。後ろがガゼボ

ガーなど。

「プラス・トゥエルブ」は16歳以上の大人向けビーチクラブ。ゆったりした音楽が流れ、高級リゾートのような雰囲気、ピクニックテーブル、デイベッド、ラウンジとカバナが選べる。カバナは3タイプの大きさがあがる12席限定でプライベートプール付き、さらにカバナ席利用者専用の大きなインフィニティプールも利用できる。食事メニューには寿司ロールなどもある。カバナの大きさと利用料が異なり、3階の大きなカバナは15人まで利用できる。グループにも対応。ペットボトルから再生した素材でプラナカンデザインのタオルを使用するなどサステナビリティも重視している。



「プラス・トゥエルブ」の3階のカバナ席

リゾート感のある飲食施設

「ブルー・クッチーナ」はパラワンビーチ前にあるギリシャ料理レストラン。デンプシーヒルにある人気店の支店で、海を目の前にゆったりした音楽と、リゾートにいるような雰囲気。朝食メニューもあり、ゆっ



地中海の雰囲気「ブルー・クッチーナ」

くり朝から過ごすのにも適している。「ザ・パラワン・フード・トラック」はアジア系の店をはじめ、タコスやハンバーガーなどフードトラック10台が並び、気軽に世界の味を楽しめる。



屋根の下にフードトラックが並び

セントーサ島のアトラクションとケーブルカー

セントーサ開発公社が出資するマウント・フェーバー・レジャー・グループ (MFLG) の新たなアトラクションも登場している。MFLGは、30年までにセントーサのカーボンニュートラルを目指すセントーサ・カーボンニュートラル・ネットワーク (SCNN) 創設メンバーの1社。

カーボンニュートラルのスカイヘリックス

スカイヘリックス・セントーサは2021年12月にインピア展望台にできたアトラクション。二重螺旋状の構造物の内側に16人乗りのゴンドラが回転しながら海拔79mさまで上昇。乗車する12分間のうち10分ほど頂上に留まり、セントーサ島と周りの南の島々などの景色を望める。スカイヘリックス・セントーサ・スナックバーのフードとドリンクは持ち込み、真ん中にあるホストを囲んだ円形のテーブルごと上昇していくので、ゆったりと景色も楽しみながら、足は宙ぶらりとなるのでスリルも十分味わえる。高所アトラクションを得意とするフランスのエアロフィル社によるエネルギー



テーブルごとゆっくり上昇

効率の高い設計で、動作に最小限の電力のみ使用するカーボンニュートラルなアトラクションという点でも話題。

ケーブルカーに世界初クローム仕上げキャビン導入

シンガポールケーブルカーのマウントフェーバーラインに新しいキャビンが3月にオープン。ケーブルカー専用設計された「スカイオブ」キャビンは、世界初のクローム仕上げの球形ケーブルカー。床がガラス張り、足元からパノラマビューを楽しめる。



世界初クローム仕上げの球形ケーブルカー

既存のケーブルカーに7台のスカイオブキャビンが加わる形で、マウントフェーバーラインとケーブルカーのスカイパス(往復)チケット所有者は、往復(マウントフェーバー駅とセントーサケーブルカーの駅間)の片道を「スカイオブ」キャビンに有料でアップグレードできる。

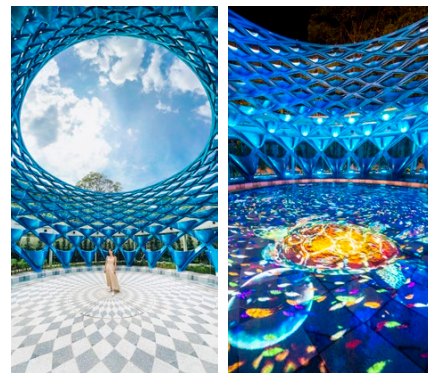


底がガラス張り

没入型屋外アトラクションがオープン

セントーサ センサリースケープでユニークな島散歩 セントーサ センサリースケープ

3月には没入型の感覚体験型パーク「セントーサ センサリースケープ」がオープン。リゾート・ワールド・セントーサに近いインピア駅から南西のビーチ駅を結ぶ350mの歩道に生物多様性をAR(拡張現実)と光と音で表現した6つのテーマの庭園スペースが点在し、無料で体験できる。庭園は、ミスト噴水のエリア「ルックアウト・ループ」、植物に触れることのできる「タクタイル・トレリス」、植物の香りを楽しむ「センティッド・スフィア」、水の流れる音が聞ける「シンフォニー・ストリーム」、食用植物が植えられた「パレット・プレイングラウンド」、フォトスポットの「グロー・ガーデン」。それぞれ、五感と想像力を使って、自然とのつながりを感じられる空間になっている。夜間にはそれぞれの庭園でImagiNiteというライトショーやプロジェクションマッピングが行われ、スマート



「シンフォニー・ストリーム」の昼(左)と夜(右)
© Sentosa Development Corporation

フォンアプリで見ること水中の世界や蝶が舞う様子などイメージがさらに広がる仕掛けとなっている。島の再開発計画「セントーサ・プラニ・マスタープラン」のひとつ。

シンガポール初の全室ヴィラリゾートまもなく誕生 ラッフルズ セントーサ シンガポール

セントーサ島へのホテル建設も続くなか、注目されているのがシンガポール2番目のラッフルズとしてセントーサにオープン予定の「ラッフルズ セントーサ シンガポール」。南シナ海を望むトロピカルガーデンが広がるなかに、62棟のヴィラが並び超豪華リゾートで、ヴィラは1ベッドルームでも260㎡、4ベッドル

ムが450㎡と広く、それぞれにプライベートプールとテラスが備わる。ウェルビーイングの長期滞在にも対応し、科学に基づく長寿プログラムなどを提供するスパ、植物学や歴史に関する本を置くライブラリー、海を見渡せる400席の宴会場がある。オリジナルのセントーサ・スリング・カクテルがデビューする予定。